

大豆栽培管理情報（第4号）

令和2年7月3日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 雑草防除

○培土実施後も雑草が多い場合は、雑草の種類や葉齢に応じ、除草剤を適切に使用しましょう。

除草剤の散布の目安

	除草剤名	使用時期	適用雑草	10a当り使用量	使用回数
選択性	ポルトフロアブル	雑草生育期 (ただし、収穫30日前まで)	1年生イネ科雑草 (イネ科雑草3～10葉期)	200～300mℓ (水100ℓで希釈)	1回
	大豆バサグラン液剤(注1)	大豆2葉期～開花前 雑草生育初期～6葉期 (ただし、収穫45日前まで)	1年生雑草 (イネ科を除く)	100～150mℓ (水100ℓで希釈)	1回
非選択性(注2)	バスタ液剤	大豆5葉期以降雑草生育期 畦間処理、株間処理 (ただし、収穫28日前まで)	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓで希釈)	ゲルホシネット及び ゲルホシネットP 3回以内
	ザクサ液剤	雑草生育期 畦間処理(ただし、収穫28日前まで)	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓで希釈)	ゲルホシネット及び ゲルホシネットP 3回以内

注1：著しい高温が続く場合や、湿害等により大豆の生育が不良の場合は、薬害を助長するので使用を避ける。
注2：非選択性除草剤はかかった植物を枯らすので、吊り下げノズル等を使用し、飛散に十分注意して散布する。

2. うね間かん水

- 開花期から9月上旬の間、3日以上晴天日が続いた場合は、土壌の乾きに応じてうね間かん水を行いましょ。
- かん水は短時間で行い、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。
- 地域での計画的な用水の利用を行いましょ。



3. 病害虫防除

- ウコンノメイガの常発地では、幼虫による葉巻の発生を確認したら、速やかに防除しましょ。
- 紫斑病・カメムシ類等の病害虫を対象とした2回の基本防除を徹底しましょ。
- 農薬の使用基準を守り、周辺への飛散防止に努めましょ。

◀病害虫防除の目安▶ ※ 下表以外の病害虫についても発生状況に応じて適切に防除しましょ。

		随時防除	基本防除		随時防除
散布時期		7月下旬～8月上旬 【葉巻を発見したら】	8月上～中旬 【莢が伸びきった頃】	8月下旬 【枝豆程度の頃】	8月下旬～9月中旬 【被害を発見したら】
対象病害虫 農薬名 散布量	粉剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病、カメムシ類	紫斑病、カメムシ類、 アブラムシ類	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類、アブラムシ類
		サイアノックス粉剤 4 kg/10a	スミチオンベルコート 粉剤DL 3 kg/10a	Z ボルドートレボン 粉剤DL 4 kg/10a	トレボン粉剤DL 4 kg/10a
	液剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病、カメムシ類	紫斑病、カメムシ類	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類、アブラムシ類
		プレバソン フロアブル5 4,000倍 150 ℓ/10a	ベルコートフロアブル 1,000倍 + ダントツフロアブル 2,500倍 150 ℓ/10a	アミスタートレボン SE 1,000倍 150 ℓ/10a	トレボン乳剤 1,000倍 150 ℓ/10a

ウコンノメイガによる葉巻



紫斑病



イチモンジカメムシ



ハスモンヨトウ

